

○ 本校の概要

- \* 学校規模(児童数503名、通常学級数16、通級指導学級3(言語2、弱視1)、特別支援教室1(拠点校)、教員32名)
- \* 校内研究: 主題「自ら課題を見付け、わかる・できる楽しさや喜びを感じられる児童の育成」体育科の研究3年目 大田区教育委員会教育研究推進校2年目となり、本年度、10月16日に研究発表会を予定している。
- \* 特色ある教育活動: ○大田区学習効果測定を分析して作成した「授業改善推進プラン」に基づき、授業改善を行い、問題解決的な学習や体験的な学習を積極的に取り入れ、児童の基礎的・基本的学力の向上を推進している。
- 清掃活動を縦割り班で行うなど、異学年と交流を図る活動を実施し、児童相互のよい人間関係を育むとともに自主性を培っている。
- 併設の「弱視通級指導学級」「言語障害通級指導学級」「特別支援学級(サポートルーム)」との連携や学校特別支援員の活用、個別指導計画・個別支援計画の活用を通じ、特別支援教育を推進している。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄			
								評価人数	コメント		
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化に対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	4: 80%以上 3: 75%以上 2: 70%以上 1: 65%未満	4	○外国語教育指導員を効果的に活用し、担任が役割分担を明確にして授業を展開することができた。 ○理科の授業で事前の準備を入念に行い、実験の予想や振り返りを充実させることで科学的思考力の育成も図ることができた。「スピーチ大会」では発表内容を考える過程で、論理的な思考力の育成を図り、コロナ禍における発表の方法を工夫して実施した。	A	7		
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのつくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4: 全教員が行った。 3: 80%以上の教員が行った。 2: 60%以上の教員が行った。 1: 60%未満であった。	2	3: 75%以上 2: 70%以上 1: 65%未満	3	○デジタル教科書や電子黒板やタブレットを有効に活用し、ICTの授業がより身近なものとなった。 ○2か月間の休校、夏季水泳指導の中止の影響はあったが、体育の研究成果による運動する意欲を体力向上につなげていく流れはできた。 ●校外学習による体験的な活動は授業時間の確保や感染防止のため十分に行えなかった。 ●自己肯定感を高める場や授業を意識して、意図的に教育的活動を展開していることが課題である。	B	4		
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4: 対象となる全学級(全教員)で行った。 3: 80%以上の教員が行った。 2: 60%以上の教員が行った。 1: 60%未満であった。	4	381/504 76%	3	2: 70%以上 1: 65%未満	1	<アンケート回答数504名>	C	0
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4: 全教員が行った。 3: 80%以上の教員が行った。 2: 60%以上の教員が行った。 1: 60%未満であった。	4	4: 全教員が行った。 3: 80%以上の教員が行った。 2: 60%以上の教員が行った。 1: 60%未満であった。	4	4: 60%以上 3: 55%以上 2: 50%以上 1: 45%未満	4	4: 第6学年の児童の割合40%以上 3: 第6学年の児童の割合35%以上 2: 第6学年の児童の割合30%以上 1: 第6学年の児童の割合30%未満	D	1
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4: 対象となる全学級(全教員)で行った。 3: 80%以上で行った。 2: 60%以上で行った。 1: 60%未満であった。	4	4: 50%以上 3: 45%以上 2: 40%以上 1: 35%未満	4	○学習効果測定の結果を受け、学習カルテの作成や面談を通して児童への指導を行った。また学習効果測定に該当しない学年でも学校再開後に年間計画を再作成し学習指導の重点化や充実を図った。 ○学習指導講師による補習学習(土曜日)では、児童の実態を十分に考慮し、保護者の希望を取って進めている。補習学習(平日)については、教員からの推薦も加味し、保護者の了解をとって数名の教員で個別指導を行っている。	A	7		
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4: 学期毎に知らせた。 3: 学期間に1回は知らせた。 2: 年度間に1回は知らせた。 1: お知らせできなかった。	3	よくあてはまる 161/399 40%	4	4: 0%以上 3: 0%以上 2: 0%以上 1: 0%未満	B	4		
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4: 対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3: 80%以上の教員が働きかけた。 2: 60%以上の教員が働きかけた。 1: 60%以下の教員が働きかけた。	4	あてはまる 228/399 57%	3	3: 5%以上 2: 0%以上 1: 0%未満	0	<追加> 本報告書のデータ集計後の2月初旬に行われたアンケート調査の結果では、学校全体の「体育の学習がとても好き」と答えた児童の割合が、2学期から約半年間で1.5%向上した。	C	0
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上が回答した。 2: 60%以上が回答した。 1: 60%未満であった。	4	1: 60%未満であった。	1	3: 5%未満 2: 0%未満 1: 0%未満	1	<アンケート回答数399名>	D	1
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4: 全教員が行った。 3: 80%以上の教員が行った。 2: 60%以上の教員が行った。 1: 60%未満であった。	4	4: 60%以上 3: 55%以上 2: 50%以上 1: 45%未満	4	○生活指導部を中心に小中一貫の取組みとしてあいさつの励行に取り組み、到達目標である8割を超えることができた。 ○学校のきまり、社会のルールを守る意識付けには、学校行事や全校朝会、学級において計画的な指導を行い毎週振り返りを行った。 ○コロナ禍ではあったが、多くの児童は学校生活を楽しくしていることがアンケート調査から分かった。 ●各道徳資料の提供や日常的な道徳授業の活性化の課題については、校内の東京教師研修部員の公開授業や副校長の模範授業を行った。 ●不登校児への指導については、校内委員会等を適宜設けて、子ども家庭支援センター、児童相談所、都区教育相談担当者等と連携して組織的に進めているが対応は継続中である。	A	8		
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4: 学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3: 学期に1回(年間3回)以上行った。 2: 年度間に1回以上行った。 1: 実施しなかった。	2	4: 全教員が行った。 3: 80%以上の教員が回答した。 2: 60%以上の教員が回答した。 1: 60%未満であった。	3	6: 0%以上 5: 0%以上 4: 0%以上 3: 0%以上 2: 0%以上 1: 0%未満	3	○挨拶は大事なので、毎週の振り返りはよい。 ○他人の気持ちの分かる子どもを育ててほしい。 ○コロナ禍でも子どもたちにとっては大事な環境(友だちや家族以外の大人とふれあえる環境)がある学校で学べたことはよかった。	B	3
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4: 「組織的に対応できた」と全教員が回答した。 3: 80%以上の教員が回答した。 2: 60%以上の教員が回答した。 1: 60%未満であった。	3	学校評価(保護者)の結果で「子どもは、学校生活を楽しくしている。」の「あてはまる」の項目の割合(4段階評価)	3	5: 5%以上 4: 0%以上 3: 0%以上 2: 0%以上 1: 0%未満	0	<アンケート回答数399名>	C	0
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4: 組織的に対応できた」と全教員が回答した。 3: 80%以上の教員が回答した。 2: 60%以上の教員が回答した。 1: 60%未満であった。	4	252/399 63%	4	1: 0%未満	1	「あてはまる」は 140/399 35%	D	1
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4: 全教員が行った。 3: 80%以上の教員が行った。 2: 60%以上の教員が行った。 1: 60%未満であった。	3	4: 50%以上 3: 40%以上 2: 30%以上 1: 20%未満	4	○全校で取り組んだ「ランタイム」の実施は児童数増に伴い、日程や場所を割り振って行ったが、教員の組織的な指導、共に走る活動を通して児童の走る意欲を引き出すよい機会となった。 ○保護者への生活習慣、健康体力向上の啓発は、運動会の実施が困難となり内容を工夫して学年ごとに2種目の運動を公開した。今後も運動会の実施については検討していく必要がある。	A	9		
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4: 全教員が行った。 3: 80%以上の教員が行った。 2: 60%以上の教員が行った。 1: 60%未満であった。	3	朝遊び12月期の人数 アンケート「外遊びを喜んで行う」児童の割合	3	3: 30%以上 2: 20%以上 1: 10%未満	2	○保護者のための運動会ではないので、無観客での運動会を検討すればよい。 ○体育・スポーツ好きの子どもたちが多いことは喜ばしい。	B	2
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4: 全教員が行った。 3: 80%以上の教員が行った。 2: 60%以上の教員が行った。 1: 60%未満であった。	4	393/499 79%	4	4: 30%以上 3: 20%以上 2: 10%以上 1: 0%未満	0	○コロナ禍ではあったが、大田区教育委員会教育研究推進校として全学級公開授業を実施することができた。 ●体力テストの結果は現在集計中であるが、校内研究とも運動してさらに取組みの工夫や継続が必要である。 ●食育については研究発表会の公開授業で一定の効果があったが、全体的、継続的な取組を行っていく必要がある。	C	0
		研究発表会の授業公開、学校公開、授業観察で体育や保健の授業を実施し、児童の体力向上や健康に関する意識の啓発を行う。	4: 学級担任全教員が行った。 3: 80%以上の教員が行った。 2: 60%以上の教員が行った。 1: 60%未満であった。	3	1: 30%未満 2: 20%未満 3: 10%未満	1	4: 5%未満 3: 0%未満 2: 0%未満 1: 0%未満	1	<アンケート回答数499名>	D	1
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくり出す。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上の教員が回答した。 2: 60%以上の教員が回答した。 1: 60%未満であった。	2	4: 50%以上 3: 45%以上 2: 40%以上 1: 35%未満	2	○校内委員会では定期的に実施し、課題のある児童について有用な情報交換や今後の取組について共通理解をもつことができた。 ○ICTの研修についてはGIGAスクール構想も踏まえ、校外校内の研修会に積極的に参加し、今後のタブレットやインターネットを活用した学習や授業展開の基礎を学ぶことができた。 ●コロナ禍で授業公開が1、2学期は実施できなかった。そのため、保護者の授業評価を反映する校外に出向いての研修、研究会の機会も減った。オンラインの研修も始まったばかりで今後の課題である。 ●研修、研究、授業観察を受けた授業改善は校内ICT研修等も行われてきているが、学んだことを授業の計画段階からどのように生かしたのか、成果や課題の分析を次の指標としたい。	A	9		
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4: 学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3: 学期に1回(年間3回)以上行った。 2: 年度間に1回以上行った。 1: 実施しなかった。	4	学校評価(保護者)の結果で「教師は、学力を身につけさせるために指導の工夫をしている。」の「よくあてはまる」の項目の割合(4段階評価)	4	5: 5%以上 4: 0%以上 3: 0%以上 2: 0%以上 1: 0%未満	0	<アンケート回答数396名>	B	2
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上の教員が回答した。 2: 60%以上の教員が回答した。 1: 60%未満であった。	4	226/396 57%	4	4: 5%以上 3: 0%以上 2: 0%以上 1: 0%未満	0	<アンケート回答数396名>	C	0
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4: 月1回以上行った。 3: 学期に2~3回行った。 2: 学期1回以上行った。 1: 実施しなかった。	4	あてはまる 165/396 42%	1	4: 5%未満 3: 0%未満 2: 0%未満 1: 0%未満	1	<アンケート回答数396名>	D	1
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割を明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指す。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作り出す。	学校・家庭・地域が担う役割を明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指す。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作り出す。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4: 月1回以上更新した。 3: 学期に2~3回更新した。 2: 学期1回以上更新した。 1: 更新しなかった。	4	4: 50%以上 3: 45%以上 2: 40%以上 1: 35%未満	4	○休校期間にホームページは課題の発信や教員からのメッセージ送信に役立てることができた。動画の配信や編集のスキルアップも図ることができた。 ○学校支援地域本部主催の活動もコロナ禍でも学期から実施可能な形態で取り組むことができた。 ●コロナ禍により、運動会や音楽会は実施方法を工夫して行うことができた。一方で、研究発表会や1、2学期の授業公開は実施を見送らざるを得なかった。学校の新しい生活様式に沿った学校行事や公開の在り方を今後研究していく必要がある。	A	8		
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4: 毎回情報を提供した。 3: おおむね情報を提供した。 2: あまり情報を提供しなかった。 1: 情報を提供しなかった。	3	学校評価(保護者)「学校と保護者・地域は、連携をとって教育活動を行っている」項目の「よくあてはまる」の割合(4段階評価)	3	5: 5%以上 4: 0%以上 3: 0%以上 2: 0%以上 1: 0%未満	1	<アンケート回答数395名>	B	4
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4: 学期1回以上行った。 3: 学期1回以上行った。 2: 年1回以上行った。 1: 実施しなかった。	4	158/395 40%	4	4: 5%以上 3: 0%以上 2: 0%以上 1: 0%未満	0	<アンケート回答数395名>	C	0
		学校公開等でセーフティ教室や薬物乱用防止教室を行い、インターネットによる犯罪の被害や非行を防止するための啓発を行う。	4: 全ての学年で実施した。 3: 4つ以上の学年で実施した。 2: 2つ以上の学年で実施した。 1: 実施しなかった。	4	合計 384/395 97%	1	4: 5%未満 3: 0%未満 2: 0%未満 1: 0%未満	0	<アンケート回答数395名>	D	0

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。  
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。  
 ○学校関係者評価の「評価」は、A: 自己評価は適切である B: 自己評価はおおむね適切である C: 自己評価は適切ではない D: 評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す